

稲・大豆作情報 (NO. 1)

1. 水稲作況情報田の生育概況 (7月3日現在)

品 種 場 所	移植日 栽植株数	年 次	現在の生育状況			概況
			草 丈 c m	茎 数 本/㎡	葉 齢	
夢しずく 佐賀市本庄町	6/17 18.0株/㎡	本 年	31.5	75	5.7	6月下旬は、平年より多雨・低日照で経過している。 ○草丈は、「さがびより」で、平年より低い。 ○茎数は、「夢しずく」、「さがびより」、「ヒヨクモチ」で、平年より少ない。 ○葉齢は、「さがびより」で、平年より少し遅れている。
		平 年	30.2	98	5.8	
		平年比	(104)	(76)	(-0.1)	
さがびより 小城市芦刈町	6/22 18.5株/㎡	本 年	18.9	74	4.6	
		平 年	27.2	84	5.8	
		平年比	(70)	(88)	(-1.2)	
ヒヨクモチ 神崎市千代田町	6/21 19.0株/㎡	本 年	23.8	72	5.9	
		平 年	23.7	128	6.3	
		平年比	(100)	(57)	(-0.4)	

注1) 各品種 前作: 麦

注2) 施肥及び病害虫防除は地区基準に準ずる

注3) 平年値は、過去10年間(H25~R4)の平均値(さがびよりについては、R1年を除くH24年~R4年の平均値)

注4) ヒヨクモチは今回神崎町のデータを用いています

◆農業試験研究センター米づくり情報1号 7月2日(抜粋)

本年産水稲の生育状況(7月2日)

移植日	項目 品種	年 次	草 丈 cm	茎 数 本/㎡	葉 齢 L	概況 (平年との比較)
6月	夢しずく	本 年	31.1	83	5.5	[気象] 6月1日~30日まで ◆平均気温…平年より0.6℃高い ◆日照時間…長い(平年比107%) ◆降水量…少ない(平年比87%)
		平 年	30.2	92	5.4	
		平年比(差)	103	90	(+0.1)	
18日	ヒノ ヒカリ	本 年	25.7	114	5.8	[生育] ◆草丈 「夢しずく」「ヒヨクモチ」でやや高い。 「ヒノヒカリ」「さがびより」で高い。
		平 年	23.8	121	5.7	
		平年比(差)	108	95	(+0.1)	
6月	さが びより	本 年	27.9	71	5.3	◆茎数 「夢しずく」「さがびより」「ヒヨクモチ」 で少ない。「ヒノヒカリ」でやや少ない。
		平 年	24.9	78	5.4	
		平年比(差)	112	91	(-0.1)	
20日	ヒヨク モチ	本 年	23.0	94	5.2	◆葉齢 「夢しずく」「ヒノヒカリ」「さがびより」 では平年並み、「ヒヨクモチ」でやや遅れている。
		平 年	22.6	130	5.7	
		平年比(差)	102	72	(-0.5)	
留意点	○梅雨入りした6月17日以降、曇天で降雨量も多かったことから、全品種とも軟弱徒長気味の生育となっている。 ○降雨により深水にならないよう、適正な水深を保つように努める。					

注1)「夢しずく」、「ヒノヒカリ」は、6月18日移植の稚苗(播種期5/24, 播種量 湿粳 180g/箱)

「さがびより」、「ヒヨクモチ」は、6月20日移植の稚苗(播種期5/27 播種量 湿粳 180g/箱)

2) 栽植密度: 「夢しずく」は、条間 30 cm × 株間 17 cm, 19.6 株/m²(65 株/坪)

「さがびより」は、条間 30 cm × 株間 20 cm, 16.7 株/m²(55 株/坪)

「ヒノヒカリ」「ヒヨクモチ」は、条間 30 cm × 株間 15 cm, 22.2 株/m²(73 株/坪)

3) 栽培管理: 施肥法は県基準に準じ、防除他はセンターの慣行による。

4) 概況欄の【草丈】、【茎数】の平年値との比較については、以下のように定義している。

低い(少ない): 94以下、やや低い(やや少ない): 95~98、平年並み: 99~101、
やや高い(やや多い): 102~105、高い(多い): 106以上。

5) 平年値は、収量について過去の全試験年次の標準偏差(σ)を算出し、 $\pm 1\sigma$ の外側にある年次を除く年次を対象にした、各項目の単純平均値。

2. 水稻における今後の管理

落水・浅水管理を徹底し、初期分けつの確保、スクミリングガイの食害回避を図る。また、今後も高温が続くと推測され、すき込んだ麦わら等の分解が進み、ガスの発生が多くなると考えられるため、適正な水管理を徹底する。

○水管理 ～ 時期に応じた水管理の徹底 ～

- ・深水管理は、分けつの発生抑制、スクミリングガイによる食害等の水稻の生育が阻害されるため、除草剤施用後、湛水期間を終えた圃場は、速やかに間断かん水に移行し、土壤に酸素を供給し、稲体の健全化を図る。
- ・佐賀県農業技術防除センターの病虫害発生予察情報(5月29日付け)では、6月のスクミリングガイの予想発生量は「多」になっており、6月5日に「スクミリングガイの注意報」が発出されている。
- ・スクミリングガイの被害が見られる圃場では、浅水管理にすると共に、必要に応じスクミノン、スクミンベイト3などで薬剤防除を実施する。
- ・今年は6月中旬以降、降雨が続いているため、せきの高さを浅水となるよう調整し、分けつ促進を第一に管理する。
- ・ガス湧きが確認されている圃場は、1~2日落水→数日浅水管理→1~2日落水を繰り返す、土壤の急激な還元化を抑制する。
- ・余り苗は、いもち病やウンカの温床になるため、直ちに処分する。



スクミリングガイの捕食の様子

○雑草防除

・除草剤散布ができなかった圃場や散布が遅れた圃場、及び処理後に田面が露出した圃場などでは、放置するとヒエや広葉雑草が繁茂し、薬剤による雑草防除が困難となるため、中後期除草剤との体系処理を検討する。

対象	除草剤名	使用時期	備考
ヒエ類	クリンチャー I 粒剤	移植後 7 日～ビエ 4L 但し、収穫 30 日前まで	湛水散布（3～4 日は湛水）
	クリンチャー EW	移植後 20 日～ビエ 6L 但し、収穫 30 日前まで	落水散布。展着剤加用。
	ヒエクリーン I 粒剤	移植後 15 日～ビエ 4L 但し、収穫 45 日前まで	湛水散布（3～4 日は湛水）
広葉雑草	バサグラン粒剤	移植後 15 日～55 日 但し収穫 60 日前まで	落水～ごく浅く湛水散布。 最低 3 日間入落水しない。
	バサグラン液剤	移植後 15 日～55 日 但し収穫 50 日前まで	高温条件下では、薬害が生じやすいのでタ方散布。
ヒエ類および広葉雑草	クリンチャーバス ME 液剤	移植後 15 日～ビエ 5L 但し 収穫 50 日前まで	落水～ごく浅く湛水散布。 最低 3 日間入落水しない。 高温条件下では、薬害が生じやすいのでタ方散布。（展着剤無加用）
	ハイカット I 粒剤	移植後 15 日～ビエ 3.5L 但し、収穫 60 日前まで	湛水散布（3～4 日は湛水）
	フォローアップ I 粒剤	移植後 15 日～ビエ 5L（稲 4 葉期以降） 但し、収穫 60 日前まで	湛水散布（3～5 日は湛水）
	ワイドアタック SC	移植後 20 日～ビエ 6L （稲 5 葉期以降） 但し、収穫 30 日前まで	落水～ごく浅く湛水散布。（展着剤無加用）

○病害虫情報（発生および防除）

- ・セジロウンカとトビイロウンカは 6 月 19 日～25 日頃に飛来が確認されている。飛来量は別表のとおり。
- ・コブノメイガは 6 月 13 日頃から確認されている。
- ・今後、飛来があった場合は、それぞれの地区・品種別に発生状況を確認し、防除時期の判断・適期防除に努める。
- ・今後、発生予測は随時更新されるため、防除の考え方等については、最新情報を農業技術防除センターのホームページで確認してください。



海外飛来性害虫情報第4号(ウンカ類・コブノメイガのトラップ捕獲状況) (令和6年7月1日更新)

月	日	トビロウunca					セジロウunca					コブノメイガ							
		佐賀県		長崎県			佐賀県		長崎県			佐賀県				長崎県			
		佐賀市	嬉野市	諫早市	諫早市	諫早市	佐賀市	嬉野市	諫早市	諫早市	諫早市	佐賀市	佐賀市	神埼市	伊万里市	白石町	武雄市	諫早市	諫早市
	ネット トラップ	ライト トラップ	ライト トラップ	ネット トラップA	ネット トラップB	ネット トラップ	ライト トラップ	ライト トラップ	ネット トラップA	ネット トラップB	フェロモン トラップA	フェロモン トラップB	粘着トラ ップ(20W蛍 光灯)	粘着トラ ップ(20W蛍 光灯)	粘着トラ ップ(20W蛍 光灯)	粘着トラ ップ(20W蛍 光灯)	フェロモン トラップA	フェロモン トラップB	
5月	22日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					0	
	23日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					0	
	24日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					0	
	25日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					0	
	26日	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0					0	
	27日	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0					0	
	28日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					0	
	29日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					0	
	30日	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0					0	
	31日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					0	
6月	1日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5日	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	6日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	7日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	8日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	9日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	10日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	11日	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	12日	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	13日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	14日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	欠測	0	2	0	0	0
	15日	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	16日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	17日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	18日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	19日	0	1	0	0	0	1	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	20日	0	3	0	0	0	0	10	2	0	0	0	0	0	0	0	1	4	0
	21日	0	8	0	0	0	0	25	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
	22日	0	0	0	0	0	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
	23日	0	24	0	0	0	25	66	8	1	1	0	0	0	0	0	3	10	0
	24日		14		0	0		92		0	2							18	0
	25日		1					148											
	26日																		
	27日																		
	28日																		
	29日																		
	30日																		

注1)ウンカ類:佐賀市のネットトラップは、農業試験研究センターで調査。嬉野ライトトラップ(予察灯)は農業技術防除センターで調査。
注2)コブノメイガ:神埼市、白石町、伊万里市、武雄市は防除員が調査。佐賀市のフェロモントラップは農業試験研究センターで調査。
※長崎県のデータは、長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室提供。

海外飛来性害虫情報 (2024年7月1日更新)

3. 大豆における今後の管理

本年は、梅雨入り(6月17日頃)が平年(6月4日頃)より13日程度遅く、昨年(5月29日)より19日遅かった。

多くの圃場では、今後播種期を迎えるが、局地的な大雨も想定されることから、安定・多収を目指すためには、天気予報や圃場条件に対応した播種技術と湿害対策が重要である。

○圃場準備 ～ 耕起は水分の低い時に。大雨・長雨予報の時は無理しない～

- ・大豆は、石灰の吸収量が多く、根粒菌の活動促進のため、石灰を必ず施用する(pH6～6.5)。
- ・播種後2日間の大雨や浸水で、発芽率が著しく低下(酸素不足による窒息)するため、播種後2～3日以内に大雨が予想される場合は無理して播種しない。
- ・荒起こしは、圃場が乾くのを待ち、なるべく播種前日～当日に行う。播種後に晴天が予想される場合、乾燥による発芽率の低下が懸念されるため、荒起こしと播種耕起の間隔を空けない。
なお、耕うんと播種を2台のトラクターで並行して組作業を行えば、土壤水分を確保しつつ播種が可能である。
- ・播種は、成形ロータリもしくは、麦用の「畦盛り板」を装着し、畦立て播種すれば、表面排水も良くなるため、浸水による出芽不良を軽減することができる。

この場合、培土に使う土を確保するため荒起こしを深めに行い、播種時は浅めに起こしながら条間を中耕培土できるようにする。

○播種

- ・種子消毒：多湿条件で播種した大豆は、発芽の遅れや、土中で種子が腐り発芽苗立ちが劣りやすい。そのため、土中での種子の腐敗リスクを軽減するために、種子消毒(クルザーMAXX、キヒゲンR2フロアブル)等を徹底し、発芽率向上に努める。
- ・播種量：大豆の播種適期は7月上中旬であるが、それ以降の播種は生育量の確保が難しくなるため、播種時期に適した栽植本数を確保する。

播種時期 (月/日)	栽植本数 (㎡当り)	栽植様式(例) (条数)条間×株間×1株本数	播種量 (/10a)	窒素施肥量 (/10a)
7/1～7/15	13本 10本	(2条)75cm×20cm×2本 (2条)75cm×25cm×2本	3～4kg	—
7/16～7/25	18本 20本	(2条)75cm×15cm×2本 (3条)50cm×20cm×2本	5～6kg	—
7/26～7/31	24本 27本	(2条)75cm×11cm×2本 (3条)50cm×15cm×2本	7～8kg	4～6kg

- ・ 播種深度：播種後2～3日以内に降雨が予想される場合→2cm程度の浅めに播種し、鎮圧はしない。
：播種後に晴天が続く場合や、土壌が乾燥気味の場合→4～5cm前後の深めに播種し、鎮圧する。
- ・ 播種後は、圃場内の湛水を防ぐため、スムーズに排水できるよう圃場内や周辺に明渠（排水路）を整備する。

○雑草防除

播種前)「ラウンドアップ」や「プリグロックス」など茎葉処理剤の散布において、風の強い日の散布は周辺水稻へ飛散する危険が大きいため必ず避ける。(場合によっては枯死まで至る)

播種直後) 土壌処理剤を散布し、雑草防除を行う。特に近年問題となっているホオズキ類の発生が多い圃場においては、「ラクサー乳剤」「フルミオWDG」が効果的である。播種直後の散布でも隣接圃場の水稻へドリフト防止のため風速と風向きに注意し、風が強い日は散布しない。

※アサガオは、多発すると大豆の作付け自体が困難になるため、見つけ次第手で抜き取る。

また、「フルミオWDG+サターンバアロ乳剤」の混用も効果がある。

※すでにアサガオ類が多発している圃場では、トレファノサイド乳剤の全面土壌混和处理(播種前に200～300ml/10a散布→速やかに荒起→播種)で密度を減らすことができるため、土壌処理剤や大豆生育期除草剤、中耕・培土と組み合わせた防除を実施する。

※ツユクサ対策(近年多く見られるツユクサは「カロライナツユクサ」と「マルバツユクサ」である。

・ 非選択性除草剤：プリグロックスLの効果が高い(ラウンドアップは効果は低い)

・ 茎葉処理剤 : 「マルバツユクサ」 → パワーガイザー
「カロライナツユクサ」 → アタックショット、大豆バサグランがある程度効果あり。

